

研究ノート

大学英語教育でのphraseologyの実践 —reading, writing, speaking授業の場合—

井上 亜依
(防衛大学校)

はじめに

日本の大学生は、文部科学省が策定した「英語が使える日本人」¹になることができるだろうか。答えはYESである。これまで日本人英語学習者を「英語が使える日本人」になるために妨げていたこととして次の2点が考えられる。

日本人は、当たり前であるが、英語母語話者ではないので、生まれたときから日本語のシャワーを大量に浴び、英語母語話者と比較すると英語のシャワーを浴びる時間は圧倒的に少ない。つまり、英語に慣れ親しむ時間の差の問題があげられる。この問題を解決する方法として、留学するなど一定期間英語のシャワーを浴びるということが考えられる。そうでもしないと、英語を駆使することは無理ではないかという考えがある。

次に、これまで応用言語学で言われていた第二言語学習者がある年齢を過ぎると、母語話者のような言語能力の習得が困難になるという「学習臨界期」の考えが、日本人英語学習者を「英語が使える日本人」になることを妨げていたのではないかと考える。しかし、応用言語学の世界では、この「学習臨界期」の考えは崩れつつある。その代わりに、日本人英語学習者には心強い考え方、multi-competenceが流布しつつある。multi-competenceとは、「第二言語能力は、第一言語と相互に作用して、より高いものを作る付加価値がある」という考え方である(佐々木(2008:68); Cook(1999))。つまり、私たちのような英語の第二学習者は、第二言語という付加価値の分だけ、単一言語話者のnative speakersより使えるチャンネルが多く、何かことにあたったとき、単一言語話者より柔軟で、効果的に解決できる(*ibid.*)。

このmulti-competenceを大学の英語教育でどう実践するのかはつまびらかではない。そこで本稿は、multi-competenceよりもシンプルで、確実に大学生の英語力向上に役立つphraseologyの実践を紹介する。次節でphraseologyについて詳述するが、簡潔に述べると、phraseologyとは成句表現の研究のことで、人間の言語の根幹をなすのは、単語でも文でもなく成句であるという考え方である。

1. phraseologyと英語教育

最近、辞書学やコーパス言語学との関連でphraseologyという用語が聞かれるようになった。それがどういう考え方なのか、どのような研究があるのか、英語教育とどのような関わりがあるのかを本節では述べる。その前に簡潔にphraseologyの基本概念とその発生の背景を述べる。

1.1 phraseologyとは

phraseologyとは、日本語訳では「成句論」(八木 2006など)と「成句表現研究」(井上

2007bなど)という名称があり、本稿は後者を用いる。そのphraseologyが取り扱う範囲は、phrase, collocation (連語)、成句、イディオム、など単語と単語が結合して形成された句のレベルである。その句のレベルは、研究分野や研究者によって異なる。一例をあげると、辞書学ではlexical phrase、言語習得理論ではchunk、またBiber *et al.* (1999)ではlexical bundleと呼ばれている。名称についてここで議論しても生産的ではないので、本稿はイギリスの辞書学者が用いているphraseological units (以後PUs)を用いる。

1.2 phraseology発生の背景

phraseologyは、英語教育の観点より始められる。いつ、どこで始まったかという、1920年代、H. E. Palmerにより東京から始められる。その後、1931年にA. S. Hornbyが加わり、1933年に*Second Interim Report on English Collocations*が出版された。詳細はInoue (2007a)を参照されたい。

もちろん英語教育だけの観点だけによりphraseologyは発達したわけではない。phraseologyの研究が盛んになってきた背景には、コーパス言語学の発展、辞書学への関心の高まり、言語教育の応用への期待などがある。また、生成文法の統語論中心の言語理論への批判があることも大事な要素である。

言語理論の統語規則とレキシコン (理論上の辞書) のモデルでは、言語習得や言語使用にあたってのphraseの果たす役割をうまく説明できない。高度な科学論文を書く場合でも、nativeとnon-naiveの書く文章では使用言語「らしさ」の違いは成句表現の使いこなし方の違いに顕著に見られるという (Cowie (1998, 1999 : 12ff.) , Howarth (1998))。統語規則とレキシコンがあればおそらく文は無限に産出される (generate) であろう。だが産出された文は、文法的にも適格であり (grammatical)、意味的にも整合性がある (congruent) が、英語らしい慣用にのっとった表現であるという保証はない。我々が英語で文章を書くと、文法的にも意味的にも間違いではないがどこか英語らしくない文章になることはよく経験するところである (八木・井上 2008 : 65-66)。

1.3 phraseologyと英語教育

英語教育学者Widdowsonが述べた以下の意見を参照されたい。

- (1) ... communicative competence is not a matter of knowing rules for the composition of sentences... It is much more a matter of knowing a stock of partially pre-assembled patterns, formulaic frameworks, and a kit of rules, so to speak, and being able to apply the rules to make whatever adjustments are necessary according to contextual demands. Communicative competence in this view is essentially a matter of adaptation, and rules are not generative but regulative and subservient.

(Widdowson (1989:135), also quoted in (Willis 2003: 142))

コミュニケーション能力とは文を構成するルールを知ることではない。あらかじめ組み立てられたパターンや、決まった定式、それに言わばひと組のルールを知ることであり、また文脈に応じて必要な調整をするためにルールの適用ができることである。コミュニケーション能力をこう捉えると基本的には状況に応じて作り変えることであり、ルールは生成的ではなく、規制を加える副次的なものである。

(八木・井上 2008:66)

Widdowson (1999) が指摘するように、言語の中核をなすのはパターンや決まった形式であり、文法はその調整役であるということである。この意見より、コミュニケーションに必要な知識は成句が中心であり、文法は付随的なものであることがわかる。

1.4 日本のphraseology

前述したが、phraseologyの英語教育学的立場からの発生に、日本で活躍したイギリス人英語教師のPalmerとHornbyを忘れてはならない。しかし、彼らのphraseologyに対する功績は、彼ら自身で作り上げられたものではなく、彼らに先立って日本で英語の研究と教育に多大な貢献をなし、多くの著作・辞書を残した斎藤秀三郎から深く影響を受けている。その他、神田乃部、南日恒太郎、勝俣銓吉郎は日本のphraseology研究の先駆者であり、世界的なphraseologyの先駆者と言っても過言ではない。このように、我が国には、世界に先駆けてphraseologyを実践した研究者たちがいたことを認識しておく必要がある。それぞれの研究者のphraseologyに対する考え、取り組みは八木・井上 (2007) を参照して頂きたいが、かいつまんで斎藤秀三郎の果たした役割と彼の考えを述べておく。

斎藤は、phraseologyと呼ばず、彼自身の用語であるidiomologyを使用した。1915年に出版された『熟語本位英和中辞典』の英語名は*Saito's Idiomatic English-Japanese Dictionary*である。ではそのidiomologyとは斎藤にとってどのようなものだったのだろうか。*Advanced English Lessons* (1901-1902) の“Preface” から引用しておく。

- (2) It is true that there is English Grammar; but, as it is generally taught and studied, it is nothing more than a set of rules dealing with mere form without matter, and it is justly condemned as being rather a hindrance than a help to the acquirement of the living language. No grammar, rhetoric, or lexicon in existence treats of the living physiology of the language, the multifarious functions of each individual word, the nice distinctions and delicate shades of meaning peculiar to each word and phrases, the spirit and genius of the English idiom. It is not sufficient explanation to say that an expression is idiomatic. Idiom is a growth, and all growth is subject to natural law. Some idioms have arisen from a tendency to brevity, others from considerations of emphasis, and still others from the necessity of distinction. The study of formation of idiom reveals that language, as it is, has not been formed at random, but that the expressions of human thought is governed by laws of economy no less rigid than those which regulate the material world.

ここで述べられている内容は、次のようなことである：確かに英文法というもの存在するが、その英文法は中身のない形式を扱う規則にしか過ぎず、言語学習の妨げにこそなれ、役には立たない。文法にしろ、修辞論にしろ、辞書にしろ、言語の生きた姿や個々の語の多様な機能、語や句の独特の微細な意味、英語のイディオムの精神・真髓を扱うものはない。ある表現をつかまえて、これは慣用的 (idiomatic) だ、などというだけでは不十分である。イディオムは成長するものであり、すべての成長は自然法則に従っている。

簡潔を好む傾向から生じたもの、強調のために生じたもの、目立たせる目的から生じたものがある。イディオム形成は、無秩序にできたものではなく、人間の思考の表現は物質世界を支配する経済の法則に勝るとも劣らない経済の法則に支配されている（八木・井上2007）。斎藤のidiomologyは、今日使用されているphraseologyと同様の考えであった。

2. 大学英語教育におけるphraseologyの実践—reading, writing, speakingクラスのpilot study

これまでの日本の英語教育は、文法規則、単語の丸暗記が主であった。しかし、前節までで述べたとおり、人間が言語を習得、発話する際、input, output両方の場合とも成句表現が重要な役割を果たす。筆者は、これまでoutputされたものの中から成句表現を選び出し、その文脈に応じた意味・機能を探ってきた。そこで本稿は、筆者がこれまで担当してきた授業で、成句表現を中心とした授業の取り組みを紹介するとともに、input, outputの際に成句表現を教えることにより、学生の英語能力向上に変化が見られるのかpilot studyとして検証した。

2.1 readingクラスの場合

受講者は、社会学部所属の大学1年生31名、科目名は英語A（毎週木曜日1限開講）、クラスの目標は英語で世界を知る、である。学生は、世界で注目を浴びたトピックを扱った英語で書かれたテキストを読む。(3)のようなテキストの英文内に出てくる学生が理解に困るであろうと考えられる単語・構文・成句表現の説明を記した予習プリントを配布する。というのは、学生が理解に困るのは、単語の意味を知らないというだけではなく、英文がどのような構文から成り立っているのか、また英文の中にどのような成句表現が使用されているのかということがあるからである。

授業ではそのプリントをもとにテキストの英文の説明を行い、着実に読解力をつけてもらった。また、テキストに各章に関連した単語・構文に関連した成句表現を覚えてもらった。その後、各章が終わるたびにそのプリントを復習プリントとして用い、そのプリントに基づいた小テストを行った。理由は、英語力を着実に身につけるには何よりも反復練習が大事であると考えからである。小テストを行う前提は、テストのために復習をするのではなく、自己表現がどれほどできたかを測るために復習をする、ということを生徒には説明した。

(3) 1. Soseki Home Honored with Blue Plaque (*Various Reading Today*)

page	line	単語・構文・成句表現の説明
1		plaque/plaek, plak, pleik/ Londonなどは、かつて有名人が住んだ場所に青い円形のプレート (blue plaque) が掛けられている。□ (歯科) プラーク、歯垢、
	2	prestigious 有名な、一流の ☆a prestigious university 一流大学
	3	award 賞 ☆receive an award for one's 40 years' service 40年勤続の表彰を受ける ☆win the award for best singer 最優秀歌手の賞を取る (theは、award以下にかかる)

		on March 22 ☆on Monday 月曜日に ☆on a Monday ある月曜日に ☆on Mondays 習慣的な行為と関連して用い、月曜日ごとに
		ambassador ☆the Japanese ambassador to the United Kingdom 駐英日本大使 ☆the U.S. ambassador in Tokyo 東京駐在米国大使 ☆He was appointed ambassador to the United Nations. 彼は国連大使に任命された。
	4	unveil ～の覆いを外す ☆The monument was unveiled. 記念碑の除幕が行われた。 a house where Soseki lived in Clapham, London. where ～以下がa houseの説明
	6	☆a circular building 丸ビル diameter ⇔ radius ☆The planet is 30,000 miles in diameter.= The planet has a diameter of 30,000 miles. その惑星は直径3万マイルあります。 ☆within radius of 30 miles of the volcano 火山から半径30マイル以内
	7	a list that ～ that ～以下がa listの説明 the late ～ 先の～、故～ the late Mr. Smith 故スミス氏 *故の意味との混同をさけるため、former, exのほうがよい。
	12	under the sponsorship of the Japanese government 日本政府の援助(後援)で ☆under the sponsorship of A Aの援助(後援)で
	13	It appears, (however), that ～ ～のようだ
	14	feel like A Aのような気がする shaggy-dog 毛むくじゃらの犬 ☆shaggy-dog story 落ちがくだらなくて長ったらしいジョーク
2	1	financial difficulties 財政難 ☆be in financial difficulties 財政難に陥って the language barrier 言語障壁
	2	apparent 明らかに prove to be C Cの状態であることがわかる
	4	be inspired by ～ ～によってインスピレーションを与えられたもの ☆This style of art was inspired by the ancient Greek arts. この芸術のスタイルは、古代ギリシャ芸術からインスピレーションを受けたものだ。
	11	help (to) arrange the award その賞を取り決める、手配、準備するのを手伝う
	14	commemorate 記念する ☆commemorative stamp 記念切手
	16	attend 随行される ☆attend classes 授業に出る⇔skip, miss classes
	17	body 団体、組織体 ☆a self-governing body 自治体 in charge of the blue plaque honors ブループラークを管理して ☆in charge of A Aを担当(管理)して

テキストは、文法的には複雑ではないパラグラフでも豊かな成句表現を含んだものを使用している。そのような英文に触れることが、英語らしさを学ぶいい方法だと考える。例をあげると、Harry Potterは決して難しい文法事項を含んでいないが、なかなか学生は読み解くのに困難を伴う。それはHarry Potterにはたくさんの成句表現が使用されており、その英語らしさに学生には慣れていないからだと考える。

このような取り組みを12回の授業で行った結果、小テストの平均点は回を重ねるごとに向上し、学生から「英語が苦手だったけど楽しく取り組めた」、「90分間集中して勉強ができた」、「英語力が向上したように感ずる」、「いろいろな成句表現を覚えることができてよかった」というコメントをもらった。

2.2 writingクラスの場合

対象学生は、大学生、外国語学部所属の1年生13名、科目名は1年生対象Composition II、毎週火曜日1限開講で秋学期で計14回の授業回数がある。学生の平均的なレベルは、短文を正確に書くことを目標としている。使用したテキストは20章から成り立っており、(4)に示すように、前半部分(Chapter 1～Chapter 12)は「自らを語る」ということで、学校生活から学生自身のこと、家族のこと、友達のこと、住んでいる街などと学生が身近に感じるトピックを扱っている。このテキストの特徴として、それぞれのトピックに関してwords and phrasesというセクションを設けて、様々な成句表現を記述している。後半部分(Chapter 13～Chapter 20)は、現在世間で注目を浴びている環境問題のような社会問題を取り扱い、それに関して議論をしたり、自分の意見を書くことを目標としている。

(4) Chapter 1	Talking about Myself	はじめまして
Chapter 2	A Day in My Life	わたしの1日
Chapter 3	My Family	家族を語る
Chapter 4	My Town and Neighborhood	わが町を語る
Chapter 5	My Likes and Interests	こんなことが好き
Chapter 6	The Joy of Shopping	楽しいショッピング
Chapter 7	My Campus Life	学生生活
Chapter 8	My Kind of Career	こんな仕事がしたい
Chapter 9	Romance, Dating and Marriage	恋・デート・結婚
Chapter10	Fashion and Trends	ファッションとトレンド
Chapter11	Travel and Correspondence	旅と便り
Chapter12	Sports and Entertainment	スポーツと娯楽

テキスト前半部分のwords and phrasesの一例をあげる。Chapter 1は、「Talking about Myself—はじめまして」というトピックで、以下のようなwords and phrasesを紹介している。

(5) 名前・出身

～にあやかって名づけられる	to be named after ～
私の名前の由来は～です。	My name comes from ～.
～で生まれる	to be born in ～
～で育つ	to be brought up in ～

所属・専攻

専門は～です	to major in ~
副専攻は～です	to minor in ~
専門は～で…を専攻している	to study ~ with an emphasis on …
テニス部に所属する	to belong to the tennis club

アルバイト

～のアルバイトをする	to work part time as ~
働きながら大学を卒業する	to work one's way through college
店員	salesclerk
塾講師	prep-school teacher
家庭教師	home tutor
レジ係	cashier

趣味・特技

～に興味がある	to have a taste for ~
趣味として～をしている	to do ~ as a hobby
～の特技を持つ	to have a talent for ~
趣味が広い	to have a variety of interests

性格・特徴

気質は父親譲りである	to take after one's father in temperament
責任感が強い	to have a strong sense of responsibility
意思の強い	strong-willed
思いやりがある	thoughtful
外交的な	outgoing
寛大な	broad-minded
辛抱強い	patient
勤勉な	hardworking
博識である	knowledgeable
謙虚な	modest

学生のテキスト理解度、進度具合より、毎週学生に定期的にwords and phrasesを使用した英作文の課題を与えた。以下に学生が書いた英作文の一例を紹介する。words and phrasesで出てきた表現に下線、その他の成句表現をイタリックで記した。なお、文法、綴り等の間違いは訂正していない。

まずは、Chapter 2のA Day in My Lifeで書いてもらった英作文を紹介する。この章のwords and phrasesでは、to wake up one's refreshed, to sleep late, to dash to the station,

to arrive 10 minutes late, to attend the first class period class, to miss class, to get home by 6:00, to clear the table, to do the dishesなど日ごろの生活を表現するのに便利な成句表現が記述されている。この成句表現を使用して、学生の日を書いてもらった。2名の学生の英作文を以下に紹介する。

(6) “Ordinary Day”

I wake up at 6:50 with the alarm clock. First, I wash my face and I go to dining room. I have breakfast at seven. But, I often sleep late and I skip breakfast. Next, I go to back my room and I brush my teeth and I do my makeup. I leave the room at 8:40. I attend the first period class everyday. I have about three classes everyday. I get home by 6:00 and I have dinner. I go back my room and I take a bath. Next, I prepare for tomorrow's lessons and it finished before I go to bed at 11:00. [女子学生]

(7) A Day in My Life

I can't wake up refreshed in the morning except Sunday morning. I wake up with the alarm clock every day. But I sometimes sleep late. I dash to the bus stop in the days. But my mother fix breakfast for me everyday. Because I *have to* eat breakfast.

I attend the first period class every day. I'm not late for class and I don't miss class. When I turn in an assignment. I turn in assignment. But I sometimes doze in class.

I get home by 5:00 every day. I *work part-time* until 9:30. I get home by 9:40. I eat dinner and clear the table. I take a bath. I go to bed at 0:00. [男子学生]

次は、Chapter 3 My Familyで学んだwords and phrase (have two brothers, go home for the first time in three months, earn a living by ~ ing, live with ~ in an apartment, get married to ~, run a bakery) を使用して書いた英作文である。この場合は、自分の家族を紹介してもらうという課題である。

(8) We are family of four. I have a sister. She is 6 years older than me. She got married to husband this March. She'll have new baby next June. Now, they rent an apartment. But she'll go home for the first time in 10 months to her parents' home. I will help her then.

My father run a bakery. He said “I'm still working at the age of 70.” He has gone to Tokyo *on business* for September. He will come home for the first time in three months next month.

My mother is housewife. She cooks very well. Especially, she *is good at cooking* chirashizushi.

My birthplace is Fukuoka. I'd like to get a job in Fukuoka. Then, I'll rent an apartment near the office. [男子学生]

(9) My family

I have four member of family. I have one brother. He is 22 years old. He is not

married. He works for barber. He is always kind to me, but when he was a high school student, he was not kind to me. But we are very close brothers. Possibly he will change his job. *I'm not sure that*. It's may be.

My parents work for each company. My father work for a stone cleaner. I don't know the details about my mother's company. I don't have a large family. But I love large family. If my *wish come true*, I want some sisters. But the present family is the best. *No matter what happens*, I want to take good care of my family.

[男子学生]

- (10) We are a family of six. I have two brothers. My brother is one year younger than me, and my sister is five years younger than me. My brother is studying for the entrance exam. My father work for a city hall. My mother *help make* a living by doing a work part time. My grand father runs a little store. He is still working at the age of 70. During a summer vacation, I went home for the first time in four months. I like my parents' home and my family. I have a large family. My family live in a two-story house. I *want to* see them next vacation. [男子学生]

最後に、Chapter 4 My Town and Neighborhoodで与えた課題英作文を紹介する。この場合もこれまでの課題と同様に、自分の家まで帰る道順、交通アクセス、目印になる建物、自分の住んでいる地域の説明をしているwords and phrasesを使用して、「東京にいると仮定して、東京から自分の家まで帰る道順を、交通アクセス、目印になる建物、自分の住んでいる地域の説明をおりませで説明する」という課題である。

- (11) I am in Tokyo station now. I guide you to my house from here. First, I take a limited express at Tokyo station. Now I am facing the New Osaka Station from there. When I arrived at the New Osaka Station, I change trains. Second, I face to Fukuoka. *It takes a couple of hours* and I again change trains. Then, I face to Nagasaki. When I arrived at the Nagasaki station, I walk to a bus stop from the station. I get off a bus stop at the 10th stop. Next, I cross at the crosswalk and turn light at the first traffic lights. It is a five-minute walk from here. When I looked preschool, turn on left. My house nearly is newly developed residential area and community center. I go straight down the street and turn light. There is my house! [女子学生]
- (12) I moved to a quiet residential area of Tokyo last April. There are shopping area, city hall, police station and community center near the house. *So-called*, I live newly developed residential area. I'll go home in this summer. I take a limited express at Tokyo station. I *get off* the train at Nagasaki station. I don't cross the pedestrian bridge. I walk east from the station only a short. I *take a bus*. My parents' home is next to the supermarket. There is preschool on the opposite side of the street. There is a city hall in the center of my town. There are many convenience stores in my town. My parents' home is surrounded by the mountain. [男子学生]
- (13) *At first* I go to Nagasaki Airport from Haneda Airport. Next I arrive Ohmura

and I *take a train* at Ohmura station and I *get off* the train at the 3rd stop station. There is a Isahaya terminal there and I *take a bus*. The bus go to Iimori town. Iimori is my town. Iimori has a beautiful mountain. We *call it Meshimori mountain*. The name comes from a bowl of rice; the mountain looks like a bowl of rice. Iimori is surrounded by mountain and sea. The people who is living the town is very funny and gentle. The air is very tasty there. There is countryside there but I never have there. The town's population is not so many but each person's heart is very warm. There are not trains. JR in my town but there is very comfortable to live in there. If I was reborn, I would like to live Iimori town. I love Iimori town because there is the countryside. [男子学生]

上記の(6)～(13)の英作文を見ると、テキストで学んだ成句表現であるかどうかに関わらず、多数の成句表現が観察される。単文を正確に書くことを目標としている学生でも、成句表現を覚え使用すると、単文レベルからパラグラフレベルまで書くことができ、自分の意見を表現することができる。学生が書いたものには確かに文法的な間違いが少なくない。しかし、そのような間違いに目を向けるのではなく、いかに英語を使用して、何を話すのかということに重点を置くべきである。

2.3 speakingクラスの場合

対象学生は、外国語学部英語イギリス文化コース所属の大学4年生17名、科目名は4年生対象英語学特別演習Ⅰ、毎週月曜日4限開講春秋学期で計14回の授業回数がある。BBCのニュースを聞き、トランスクリプトを読むことを通して書き言葉とは違う口語英語で使用されている単語、構文、成句表現を理解、確認した。その結果、学生は英語には決まりきった構文や成句表現が繰り返し使用されていることを認識できるようになった。その後、(14)から(16)のような状況に応じた口語英語で頻繁に使用される成句表現を記したプリントを配布し、授業で学んだ単語、構文、成句表現と(14)から(16)の成句表現を組み合わせて英会話の作例練習を行い、暗記してもらった。(17)～(20)が授業で学んだ表現を使用して作った学生の英会話例である。授業で学んだ成句表現かどうかに関わらず成句表現には下線を引いた。

(14) オフィス編

Harumi : Did you hear about Jim?

Jeff : What did he do this time?

Harumi : Yesterday he sent some confidential documents to the wrong client.

Jeff : That's just the tip of the iceberg. He's been messing up everything he's done since he started working here. Last week he left the storage cupboards unlocked after he used them, and some supplies went missing.

下線部の成句表現の説明

☆**Did you hear about** [] ? : [] について (のニュースを) 聞いた?

話しの切り出しによく使われるフレーズ。[] にあたるのは人でなくても構わない。

「今週末のパーティーについて聞いた?」は“Did you hear about the party this

weekend?”

☆～this time?: 今度は／今回は～?

疑問文で“this time”がつくのは、過去にも同じようなことがあったという状況を示唆している。このダイアログでは、Jimが過去にも同じような失敗を繰り返してきたことがわかる。このように聞く場合は、たいてい「またかよ」というちょっとした嫌気が込められていることが多い。

☆be the tip of the iceberg: 氷山の一角

☆mess up: 失敗する、しくじる

☆go missing: 無くなる、行方不明になる

似たような単語として“vanish”は「消える、姿を消す」がある。他には“disappear”も同様の意味。

(15) オフィス編

Annie: Jim, I need to talk to you about your product proposal.

Jim: Sure. What did you think of it?

Annie: First of all, I must say you've really outdone yourself. This is a first-rate document.

Jim: Thank you. I did put a lot of work into it.

Annie: Unfortunately, this proposal is much too ambitious. We need something simpler.

Jim: Oh well, back to the drawing board then.

下線部の成句表現の説明

☆outdo oneself: 実力以上の力を出す

“outdo”は「～に勝る、～をしのぐ」という意味。“you've really outdone yourself.”は、いつものあなた自身に勝ることをした、つまりは「いつも以上によかった」ということ。いつも以上に頑張ったよ！とアピールする時は“I've really outdone myself.”

☆put work into something: 労力を注ぐ

“I put my blood into the project.”または“I put my heart into the project.”「そのプロジェクトには心血を注いだ」。

☆(to go) back to the drawing board: 振り出しに戻る

何かが結果的にうまくいかなかった場合、ゼロに戻ってやり直す時に使うフレーズ。

(16) カジュアル編

Katie: What's up with Matt? He's so moody lately.

Jessica: Well... it's probably because you're planning to head back to England.

Katie: What do you mean?

Jessica: He's very keen on you. You must have noticed!

Katie: Are you sure?

Jessica: There's no doubt about it. He's head-over-heels in love with you.

下線部の成句表現の説明

☆What is up with...?: ...はどうした?

「何が起こったんですか?」という意味のもっとカジュアルな聞き方。この聞き方には、ある対象が(...に当たるモノや人)が「おかしい」と、いぶかしむような状態であったり、そうあるべきではないような状態にあるというニュアンスが含まれている。「どうしたんですか」というよりは「どうしちゃったんですか」という日本語。

例) “What’s up with your dog?” 「君の犬はどうしちゃったんだ?」

“What’s up with his hair?” 「彼の髪の毛、どうしたの?」

☆to be keen on something/someone : something/someoneに夢中になっている

“on” の後ろはモノでも人でも事象でも構わないが、人が来る場合は、それが恋愛対象として夢中になっているという意味。

☆there’s no doubt about it : それは確かだ／疑う余地もない

流行語にもなった「間違いない」を英語で言うとしたらこの言い方。

☆head-over-heels (in love) : ものすごく惚れている

周りが見えないくらいの感情を表わしている。当初この表現が使われ始めた頃は ‘heels-over-head’ という順序だった。宙返りをしたり、ビックリ仰天させられている人のイメージから、生まれた表現。

(17) A : Did you hear about Kai?

B : What’s up with Kai? What’s did he do this time?

A : You know what? He had an accident yesterday.

B : Really? Is he OK?

A : Um... I’ve just heard it from my friend. So, I don’t know.

B : Did he injured ?

A : That’s just tip of iceberg. He broke his leg.

B : Oh... Let’s visit Kai in the hospital!

A : O.K. (laughing)

B : What? Why are you laughing?

A : Because, today is April fool.

B : Oh... damn it. I’ll get you back next year.

A : I’m sorry.

(18) A : Did you hear that the new Harry Potter book will be released next month? I can’t wait to read it.

B : Next month? I’ve already bought it. I subscribed for it and I’ve got a special bookmark.

A : Oh, my goodness! Is that true? I should have done it! I messed up getting it!

B : What? Did you want the bookmark?

A : Yes... What does it look like?

B : It’s like a metallic school badge of Hogwarts.

A : Wow! You’re lucky. Well, I’m very disappointed at such a cool bookmark. I am a big fan of Harry Potter and devoted to reading that story.

B : Well, I am not... I’ll give it to you.

A : Really? You don't have to get me anything!
 B : It's nothing. Wait a minute. I think it's in my bag...
 A : Thank you so much!
 B : Wait... Oh, I'm afraid it's gone missing. I am so sorry.
 A : Don't worry... Never mind.

- (19) Cathy : Hi, Jane. How are you doing?
 Jane : Hi, Cathy. I'm good. Come on in.
 Cathy : Well... Can I have a water?
 Jane : Sure. What's up with you? You look pale.
 Cathy : Well... You know I've been seeing Mark recently, don't you?
 Jane : Yeah, I know. You're keen on him.
 Cathy : Well... I found out that ... I mean...
 Jane : What is it? Spit it out!
 Cathy : I saw him walking with his wife and children yesterday.
 Jane : Are you sure?
 Cathy : There's no doubt about it.
 Jane : He's been having an affair with you. He cheated on you! Tell him to break up!
 Cathy : I know. But I'm head-over-heels in love with him.
- (20) 容疑者の山田が取調べを受けている場面
 Detective : This is your girlfriend, right?
 Yamada (a suspect) : Yes, there is no doubt about it.
 Detective : You have killed Tomomi Suzuki. We've gotten some evidence that you've done. You found that she's been seeing Shinsuke Kondou, so you have killed her. There's no doubt about it. Spit it out.
 Yamada : I was very keen on her. I mean... I was head-over-heels in love with her. However, she betrayed me.
 Detective : I know your feeling, but this is an unforgivable thing, because she's never come back.
 Yamada : Forgive me, Tomomi.

上記のように、reading, writing, speakingの授業においてphraseologyを導入をした結果、学生より「これまでと違った授業形態で面白かった」、「英文法にとらわれることなく勉強できて、英語に興味を持てた」などの積極的な評価を得ることができた。

学生の成句表現を使用して書いた英文や覚えた英会話例を見ると、成句表現を覚える前と比較して、「英語らしさ」が備わったように感じる。phraseologyは、この「英語らしさ」を身に付ける勉強方法に役に立ち、英語らしい表現をどんどん覚えることにより、「英語が使える日本人」になれると考える。これまで学んだ文法規則、単語の丸暗記という思考から脱却して、英語らしさに基づく自己表現を目指すべきと考える。

結語

本稿は、pilot studyではあるが、reading, writing, speakingの場合phraseologyの観点を

生かした結果、「英語らしさ」が身に付き、学生の英語力向上が見られたことを述べた。このことより、成句表現を覚えることは意義があり、phraseologyは大学英語教育において新たな教授法の1つとして有効ではないかと考える。今後はphraseologyの理解が深まるとともに、あらゆる分野でのphraseologyの発展に期待したい。

Note

¹ 文部科学省は、そのためには何が必要であるのかということ「～を推進する」、「～を活用する」、「～を重視する」などの表現を用いて行動計画を発表し、具体的な策は述べていない。そのため、個々の研究者が欧米で取り入れられている英語教授法を参考にして、実践するという暗中模索の段階である。

* 本稿は、2007年11月24日（土）に行われた日本英語コミュニケーション学会第16回年次大会（於早稲田大学）での発表に加筆・修正を加えたものである。また本稿は、平成19年度科学研究費補助金（基盤研究（C））「英語が使える日本人育成のための英語学習文法体系構築と個別的記述の見直し」（研究代表者・八木克正、課題番号（7520335）によって可能になったことを記し、感謝する。

References

- Biber, D., S. Johansson, G. Leech, S. Conrad, & E. Finegan. 1999. *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Longman : Pearson Education.
- Cook, V. 1999. "Going beyond the native speaker in language teaching," *TESOL Quarterly*, 33, 185-209.
- Cowie, A. P. (ed.). 1998. *Phraseology : Theory, Analysis, and Applications*. Oxford: Clarendon Press.
- Cowie, A. P. 1999. *English Dictionaries for Foreign Learners*. Oxford: Clarendon Press.
- Howarth, P. 1998. "The phraseology of learners' academic writing," In A. P. Cowie (ed.), *Phraseology: Theory, Analysis, and Applications*. Oxford : Oxford Clarendon Press, 161-186.
- Inoue, A. 2007a. *Present-day Spoken English - A Phraseological Approach*. Tokyo : Kaitakusha.
- 井上亜依. 2007b. 「Phraseologyの重要性—その概観と教育学的応用」『長崎外大論叢』（長崎外国語大学紀要論文）第11号, 29-39.
- 佐々木みゆき. 2008. 「Multi-competenceでいこう！元気がでる実践英語のススメ 「使える英語力」って？」『英語教育』4月号. Vol.57, No.1, 68-69. 東京：大修館書店.
- 八木克正. 2006. 『英和辞典の研究—英語認識の改善のために』東京：開拓社.
- 八木克正・井上亜依. 2007. 「日本のphraseology - 理論と実践」『六甲英語学研究・小西友七先生追悼号』（六甲英語学研究会）第10号, 256—270.
- 八木克正・井上亜依. 2008. 「英語教育のためのphraseology（上）・（下）」『英語教育』5,6月号. Vol.57, No.2, 44-45. 東京：大修館書店.
- Widdowson, H. G. 1989. "Knowledge of language and ability for use," *Applied Linguistics* 10 : 2, 128-137.
- Willis, D. 2003. *Rules, Patterns, and Words: Grammar and Lexis in English Language Teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.